

エチオピアの宦官の救い

ステファノの殺害事件(殉教)をきっかけとして、教会に対する大迫害が起った。イエス・キリストの福音は、散って行った信徒たちによってユダヤの各地および隣国サマリヤへともたらされた。サマリヤにおいては殉教者ステファノの同僚フィリポによってめざましい働きが展開され、一大救霊運動へと発展した。多くのサマリヤ人がぞくぞくと信じて洗礼を受け、サマリヤにキリスト者の群れが誕生した。

サマリヤで展開中のフィリポに神の啓示が与えられ、彼はガザに行くように御霊によって命じられた。フィリポは何が起るか分からないままにガザに向かった。彼はそこで一人の人に遭う。どういった人であったか？エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の財産を管理していた宦官である(宦官とは虚勢して宮廷の女王に仕える役人のこと)。この宦官がどのようにしてユダヤ教に帰依したのか詳しくは分からない。彼はエチオピアでユダヤ教の教えに触れ、それに感銘を受け帰依するようになった。そして、エルサレムの神殿への巡礼の旅を終えて、帰国の途上にあつた。

エチオピアの宦官はその時馬車に乗って預言者イザヤ書の巻物を読んでいた。御霊がフィリポに「追いかけて行って、あの馬車に並んで行きなさい」と言ったので駆けて行くと、預言者イザヤの書を読んでいる声が聞こえてきた。彼が読んでいた箇所はイザヤ書第53章だった。そこに描かれているのはまさに十字架に向かって歩まれるメシア・キリストのお姿である。初代教会はこのイザヤ53章の「受難のしもべ」の中に、主イエスの姿を見た。フィリポは口を開き、この聖書の箇所から説き起こし、情熱を込めてイエスについて福音を告げ知らせた(85節)。

その時、宦官に驚くべき変化が起る。道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。すると宦官は言った、「ここに水があります。洗礼を受けるのに何か妨げがあるでしょうか」。ここはもっとドラマチックに訳すべきである。フィリポが福音を伝えた時、宦官はこう言うのである。「この私のような者でも救われますか？ この私のような者でもバプテスマを受けることができますか？」これは驚きと救いを求める魂の叫びである。そこでフィリポは言う「あなたが真心から信じるなら、受けてさしつかえありません」。すると宦官は言う「私はイエス・キリストを神の子と信じます」(87節/欄外注の言葉)。

彼がエチオピア人であり、宦官であったということを注目して欲しい。彼はまずユダヤ人から見れば汚れた異邦人であり、またイスラエルの国では去勢された男性(宦官)は汚れたものと見なされ、宗教的行事から排除されていた。それ故このエチオピアの宦官は二重三重の負い目を負っていた。その彼に、キリストの救いの福音が伝えられた。神の恵みは全ての人に注がれている！信じる者は全てただ恵みによって救われる。その事を悟った時、彼は叫ぶのである。「この私のような者でも救われますか？ この私のような者でもバプテスマを受けることができますか？」そこでフィリポは言う「勿論です！神の恵みはあなたにも注がれています！あなたも神の恵みに招かれています！あなたが真心から信じるなら、あなたも救われます」。すると宦官は言う「はい、私はイエス・キリストを神の子と信じます」。そこで車を止めさせ、フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、そこで宦官は洗礼を受け、そして彼は救われた。福音はユダヤ人だけでなく、異邦人にも与えられている。この私にも与えられている――これこそ恵みの福音ではないか。